

シンポジウム「いま、大学ミュージアムに求められるもの」

だ い が く  
**大 学**  
ミュージアム  
れ ん け い  
**連 携**

き よ う と  
**京 都**

- 大谷大学博物館
- 京都教育大学教育資料館まなびの森ミュージアム
- 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
- 京都嵯峨芸術大学附属博物館
- 京都市立芸術大学芸術資料館
- 京都精華大学ギャラリーフロール
- 京都造形芸術大学芸術館
- 京都大学総合博物館
- 同志社大学歴史資料館
- 花園大学歴史博物館
- 佛光大学宗教文化ミュージアム
- 立命館大学国際平和ミュージアム
- 立命館大学アート・リサーチセンター
- 龍谷大学龍谷ミュージアム

2012

2

11

(土・祝)

基調講演

建畠 哲

(京都市立芸術大学学長)

13時 ~ 17時 (12時半開場)  
京都工芸繊維大学センターホール

企画：京都・大学ミュージアム連携実行委員会  
共催：京都工芸繊維大学

# 京都・大学ミュージアム連携

## シンポジウム「いま、大学ミュージアムに求められるもの」

2011年度文化庁文化芸術振興費補助金「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」における「京都・大学ミュージアム連携」による京都市内大学ミュージアムの活性化事業。

2 / 11  
13:00~17:00  
(12:30 開場)  
京都工芸繊維大学センターホール  
2012 (土・祝)  
入場無料・申込不要・先着700名

### 式次第

12:30	開場
13:00~13:15	プロジェクトの趣旨説明
13:15~14:00	基調講演 建島 哲 (京都市立芸術大学学長) 「いま、大学ミュージアムに求められるもの」
14:15~15:15	パネリスト発表 尾崎 真人 (京都市美術館学芸課長) 「地域美術館の新たな可能性と、〈発見する〉鑑賞力の薦め」 太田垣 實 (美術評論家・大阪成蹊大学芸術学部教授) 「メディア側から見た大学の美術館」 山村 純也 (株式会社らくたび代表取締役) 「京都観光とミュージアム」 並木 誠士 (京都・大学ミュージアム連携実行委員会委員長、 京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長) 「大学ミュージアム連携の可能性」
15:30~17:00	ディスカッション ◇当日は、各大学ミュージアムを紹介するブースを設けます。

### 基調講演講師プロフィール

建島 哲 (たてはな あきら) (京都市立芸術大学学長)

1947年京都市生。1972年に早稲田大学文学部卒業後、多摩美術大学教授、国立国際美術館長を経て、2011年より現職。1990年、1993年のヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー、横浜トリエンナーレ2001、あいちトリエンナーレ2010のアーティスト・ディレクターなどを務める。アジアの近現代美術の企画にも多数参加。詩人としても活躍し、1991年に歴程新鋭賞、2005年に高見順賞を受賞。専門は近代・現代美術。



### パネリストプロフィール

尾崎 真人 (おざき まこと) (京都市美術館学芸課長)

1952年生。板橋区立美術館学芸員、平塚市美術館学芸担当長、ハイデルベルク大学客員教授等を経て現職。専門は日本近現代美術(日本の前衛美術、池袋モンパルナス、京都画壇)。

山村 純也 (やまむらじゅんや) (株式会社らくたび代表取締役)

1973年京都市生。立命館大学在学中からプロの観光ガイドとして活動し、2006年4月、京都観光を総合的にプロデュースする「株式会社らくたび」を創立。著書・執筆に「京都・国宝の美」(コトコト)など。京都検定1級取得。

太田垣 實 (おおたかぎ まこと) (美術評論家・大阪成蹊大学芸術学部教授)

1947年生。京都新聞社文化部編集委員兼論説委員を経て美術評論家連盟会員、現職。専門は近代・現代美術。

並木 誠士 (なみき せいし) (京都工芸繊維大学教授・同大美術工芸資料館長・同大文化遺産教育研究センター長)

1955年生。徳川美術館学芸員、京都造形芸術大学助教授を経て現職。専門は日本美術史、美術館学。

京都は「大学のまち」といわれるほどに、数多くの大学が、市の内外にあります。その多くは、美術館、博物館、資料館といった施設(ミュージアム)をもち、そして、その施設では、教材や研究資料として蓄積されてきたさまざまな美術品、歴史資料など、つまり、文化遺産の数々を収蔵し、その収蔵品を展覧会というかたちで公開しています。しかし、大学におけるこれらの活動は、あまり、知られていないかもしれません。

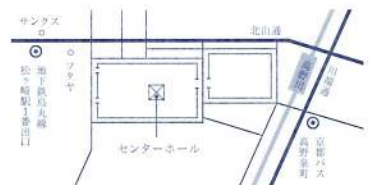
このたび、京都市内外にある13大学14のミュージアムが連携して、「京都・大学ミュージアム連携」を立ち上げました。この「京都・大学ミュージアム連携」は、2011年度文化庁助成「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」に採択された「京都のミュージアム活性化プロジェクト」の一環として設置されたもので、各大学ミュージアムが収蔵する資料を、より有効に活用し、より多くの方々に知っていただくために、共同してさまざまな事業をおこなってゆきます。

その最初の事業として、2012年2月11日(土・祝)にシンポジウムを開催して、京都の大学ミュージアムが手を取りあったとき、教育や研究、さらには、京都のまちの活性化にどのような成果・効果をあげることができるかを考えてみたいと思います。これからは、大学ミュージアムの活動も、閉じたものではなく、社会に対して開かれたものであるべきです。開かれた大学ミュージアムが、社会にとってどのような役割を果たすことができるのか、このシンポジウムでは、その可能性を探ってみたいと思います。

京都・大学ミュージアム連携 実行委員会 委員長  
並木誠士

### アクセス

〔地下鉄をご利用の場合〕  
地下鉄丸太線松ヶ崎駅出口から右(東)へ約400m  
4つ目の信号を右(南)へ約180m  
〔バスをご利用の場合〕  
京都バス高野泉町下車、馬橋を渡り左へ約200m



〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町 tel. 075-724-7924 <http://univ-museum.kyoto.kit.ac.jp/>

スタンプラリーはじまるよ! (詳細は当日発表!)

2012年度企画 合同展覧会

「大学は宝箱! 一京の大学ミュージアム収蔵品展一」

会期:2012年10月3日(木)~11月25日(日)  
会場:京都大学総合博物館

関西から  
文化力  
POWER OF  
CULTURE